

現代女性とキャリア連携専攻委員会

2014年度 推薦図書リスト



①書 名：パリの保育士たち

著 者：クロード・ギュッマン著；大野豊子訳

発 行：新読書社，2013年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：953-Gut



高櫻綾子先生（児童学科）の推薦のことば：日本の保育現場を知る者として、本書の舞台パリの保育園で交わされる会話に愕然…国が違えばここまで変わるのか！しかし待機児童、虐待、家庭内事情…本書で取り上げられるテーマは日本にも通じる問題であり、他国のことと考えてはいら

れない。そして気づく。園長による「問題があっても子どもにしわ寄せがいかないようにしなければいけないわ」との保育者への励まし、「我々は波風だろうと何だろうと、子どもらと共に歩き続けるでしょう」との宣言。保育者としての葛藤と親として人としての苦悩を抱えながらも子どものために戦う保育者の姿や思いに国の違いはない。幼い子どもを取り巻く環境や制度が大きな転機に立つ今の日本だからこそ読んで考えて欲しい—最前線で戦う保育者を支えるのは？—。

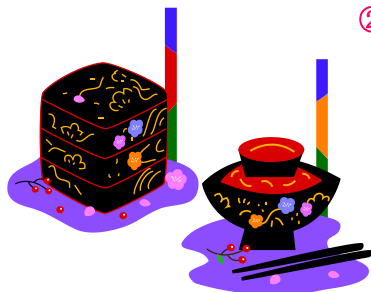
②書 名：和食と食育—和食のこころを受け継ぎそして次世代へ—

著 者：江原絢子編著

発 行：アイ・ケイコーポレーション，2014年刊

所 蔵：図書館目白，院生活経済 請求記号：383.8-Was

飯田文子先生（食物学科）の推薦のことば：昨年12月に「和食」が食の分野として5番目に、「自然を尊重し季節折々の地域文化や慣習の伝承も含めたもの」としてユネスコの世界無形文化遺産になりました。この本は和食の食文化、栄養価、調理科学、マナーなどすべてが1冊に集約されています。この本で和食とは何かを考えてみてください。



③書 名：東アジアの家父長制—ジェンダーの比較社会学—

著 者：瀬地山角著

発 行：勁草書房，1996年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田，院人間発達学 請求記号：367.2-Sec

篠原聡子先生（住居学科）の推薦のことば：近隣の国でありながら、東アジアの各国における家族や社会における女性の立場は大きく異なる。多様な実態を知ることと、自分のおかれた環境を俯瞰する意味でも興味深い著作である。また、筆者は数少ない男性のジェンダー研究者である。



④書 名：満心愛の人 益富篤子と古謝トヨ子—フィリピン引き揚げ孤児と育ての親—

著 者：大橋由香子著

発 行：インパクト出版会，2013年刊

所 蔵：図書館目白，被服 請求記号：289.1-Mas

森 理恵先生・大塚 美智子先生（被服学科）の推薦のことば：古謝トヨ子さんはフィリピンのミンダナオ島で1930年代に生まれた。両親は沖縄からの移民でマニラ麻の

農園を経営していた。現地の人も交流し言葉も少し覚えた幼少時代だったが、太平洋戦争で人生が一変する。逃避行、收容、引き揚げという大変な苦勞のなかで、父、母、妹弟を失ってひとり着いた先が、益富篤子さんの孤児院、愛恵学園だった。篤子さんは献身的に孤児を育てたキリスト者。著者の大橋由香子さんは、トヨ子さんから大切な資料の提供を受け、何度もお話を聞き、ふたりの人生を丁寧にたどる。時代を強く生き抜いた女性たちの姿をぜひ、心に刻んでください。

⑤書 名：ダイバーシティと女性活躍の推進：グローバル化時代の人材戦略：報告書

著 者：経済産業省編

発 行：経済産業調査会，2012年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田 請求記号：O.S.-336.4-Dai

額田春華先生（家政経済学科）の推薦のことば：日本では、女性の教育・健康について高い水準が実現されているにもかかわらず、経済社会の中での女性人材活用については国際社会の中で後塵を拝してきた。本書は、経済産業省の委託事業として実施された研究会の成果をとりまとめたものである。わが国のダイバーシティ・マネジメントに関する昨今の議論についてその概観をつかみたい学生、またダイバーシティ・マネジメントの日本の先進事例に触れてみたい学生にお薦めの本である。



⑥書 名：国をつくるという仕事

著 者：西水美恵子著

発 行：英治出版，2009 年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：333.8-Nis

平舘英子先生（日本文学科）の推薦のことば：著者は、貧困故に幼女が死ぬという世界の現実を目の当たりにして、経済学者から「貧困のない世界をつくる」という使命を背負う世界銀行の一員へと転身し、後にその副総裁となった人物です。本書では世界銀行員として活躍した 23 年間における世界の、特にアジア地域の様々なリーダーたちとの出会いを綴っています。そこに語られるのは、どのような仕事であれ、夢と情熱と信念とを持つリーダー達への共感と尊敬のまなざしであり、世界銀行の使命のもと、真摯にそして女性としてのしなやかさを失わずに対応する著者のすがすがしい生き方です。仕事をする事の根幹にある大事なことを考えさせてくれる書として、是非読んでみてください。



⑦書 名：ヘルプー心がつなぐストーリー（上）（下）（集英社文庫；[ス 11-1]，[ス 11-2]）

著 者：キャスリン・ストケット著；栗原百代訳

発 行：集英社，2012 年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：933-Sto-1, 2

土屋智子先生・白井洋子先生（英文学科）の推薦のことば：舞台は 1960 年代、公民権運動真っ只中のアメリカ、ミシシッピ州。アメリカ南部には白人と黒人を隔離する社会制度が 100 年近く続いていたが、そこに変革の兆しが訪れた時の物語である。白人の黒人メイドに対する人種差別意識に疑問を持ち始めた一人の白人女性が黒人メイドたちの置かれた状況を多くの人に知ってもらおうと本の出版に奮起する。社会的に置かれた状況が異なる白人女性と黒人女性の間にも生まれる女性同士の連帯、勇気、愛が読み取れる作品である。



⑧書 名：沈黙の時代に書くということーポスト 9・11 を生きる作家の選択ー

著 者：サラ・パレツキー著；山本やよい訳

発 行：早川書房，2010 年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：934 - Par

高頭麻子先生（史学科）の推薦のことば：9.11 後のアメリカでは、「愛国者法」により、白人キリスト教男性が主導する「強いアメリカ」の「愛国者」でなければ「テロリスト」という二者択一を迫り、女性やマイノリティの少数意見を封殺した。震災後の社会不安のなか、「特定秘密保護法」や憲法の解釈変更が続けざまに進んでいる日本も、同じような状況ではないだろうか。男性作家の専売特許のようなハードボイルド・ミステリ界に女性探偵ヴィクを登場させた著者が、沈黙を迫る「恐怖の時代」に「声」を見つける努力を、マーティン・ルーサー・キング牧師やオバマ大統領との出会いなどを通して、自伝的に語っている。



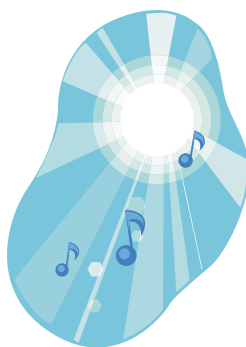
⑨書 名：素数の音楽（新潮クレスト・ブックス）

著 者：マーカス・デュ・ソートイ著；富永星訳

発 行：新潮社，2005 年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田 請求記号：413.5 - Dus

東海林まゆみ先生（数物科学科）の推薦のことば：素数は数学に親しんでいない人や子供達にとっても大変親しみのある数ではないだろうか。それにもかかわらず今も数学の未解決問題として君臨する難問中の難問であり、多くの偉大な人々が挑んでは挫折してきた。本書は、素数とそれに深く関係するリーマン予想に関わった人々や逸話を紹介する本である。著者自身素数の研究者でありながら数学の啓蒙活動にも力を入れている人物ということもあり、読みやすく描かれておりまた研究者達の並々ならぬ情熱も伝わってくる書物である。



⑩書 名：生物と無生物のあいだ（講談社現代新書；1891）

著 者：福岡伸一著

発 行：講談社，2007 年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田，英文，院生活環境学 請求記号：460.4 - Fuk

永田典子先生（物質生物科学科）の推薦のことば：同じ表現ではなくとも、人ならば一度は考えたことのあるテーマであろう。本書を読めばその謎が解けるかと言えば、その期待は裏切られる。しかし、今なお多く残されている生命の謎の一端とそれを紐解く科学者達の熱い歴史を、この本はわかりやすく教えてくれる。特に、野口英世やフランクリンなどの過去の偉人達の裏話は、科学者という職業とその生き方を違った角度で考えさせるものである。

